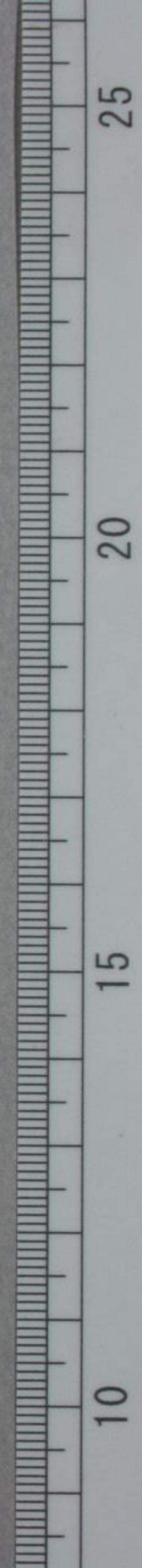




舞譜持世入成

^ 5  
2173





利  
門  
號 2.173  
卷

利門  
號 2.173  
卷

序

人の或るを以て其の

好む所を以て其の

好む所を以て其の

好む所を以て其の

好む所を以て其の

好む所を以て其の

明治二十一年四月廿三日  
藤野 漸  
氏書







⑤	下の句ふらふ	廿四丁	⑤	法くどまり	廿四丁
⑥	見ゆとまり	廿五丁	⑥	こそてふを	廿五丁
⑦	云のこすてふを	廿六丁	⑦	と縁字のまり	廿六丁
⑧	治定とてふ字	廿七丁	⑧	まらん	廿七丁
⑨	治定のり	廿八丁	⑨	かまひ又地又	廿八丁
⑩	八字に付所	廿八丁	⑩	一句二句成句	廿八丁
⑪	指合の沙汰	廿九丁	⑪	同字別吟	廿九丁
⑫	句數并去嫌	三十丁	⑫	神祇之詞	三十丁
⑬	非神祇詞	三十一丁	⑬	尺教之詞	三十一丁
⑭	非尺教之詞	三十二丁	⑭	戀之詞	三十二丁

⑮	非戀詞	三十三丁	⑮	無常之詞	三十三丁
⑯	述懐之詞	三十四丁	⑯	非述懐詞	三十四丁
⑰	人倫之詞	三十五丁	⑰	非人倫詞	三十五丁
⑱	居所之詞	三十六丁	⑱	非居所詞	三十六丁
⑲	夜分之詞	三十七丁	⑲	非夜分詞	三十七丁
⑳	山類之詞	三十八丁	⑳	非山類詞	三十八丁
㉑	水邊之詞	三十九丁	㉑	非水邊詞	三十九丁
㉒	四季之詞	四十丁	㉒	面公句裏一頓筆句	四十丁
㉓	百韻并四句歌仙	四十一丁	㉓	臨席覺悟	四十一丁
㉔	執筆法様	四十二丁			







此中又ふみこめ詞よりつくれば

八雲御抄云或は詠曰俳諧有様二俳諧三俳諧四俳  
諧五諧能イニ詠一六謎字七空戯八鄙後九狂言一狂云  
或義俳諧八狂もつとに狂言俳諧八俳諧云おつと心空也  
俳諧八詞字のつとに狂言のつとに詠のつとに俳諧のつとに  
つとに狂言のつとに俳諧のつとに詠のつとに俳諧のつとに  
謎字のつとに詠のつとに狂言のつとに俳諧のつとに詠のつとに  
鄙後のつとに狂言のつとに俳諧のつとに詠のつとに俳諧のつとに  
詠のつとに狂言のつとに俳諧のつとに詠のつとに俳諧のつとに

二俳諧六作

心身統 みる人おむるねらこもや妹の月

詞在統 乃く付よふばらげ代やがどり縄 下全

心利口 貞とまふらふまねさつとん 正芳

詞利口 けいもあふよなまけいさまもく 利也

心狂 小傾城ゆきてあつらん年け暮 其角

詞狂 系流もたひん狂おひ七名来 こそを

右六作引寄りしは是も奥義抄より久くあり凡  
俳諧の句もいふ六作といふよりあつて我うぬくこ  
らりて他とす



三 俳諧六義

八雲四抄は風は人奇く定家公は風は人奇くは風は人奇く

風は人奇くは風は人奇くは風は人奇く

先いへ人梅とん乃冬あもり

とせと

八雲四抄は風は人奇くは風は人奇くは風は人奇く

梅は人奇くは梅は人奇くは梅は人奇く

今

比

八雲四抄は比は人奇くは比は人奇くは比は人奇く

いさめを人も乃約はうも中とどり

季吟

真

八雲四抄真は人奇くは真は人奇くは真は人奇く

血乃さうは月いらぬさく花盛

奉堂

雅

八雲四抄雅は人奇くは雅は人奇くは雅は人奇く

去ぬけさふさうりさそ 路はなわ

孫清

頌

八雲四抄頌は人奇くは頌は人奇くは頌は人奇く

さくや小判あふて 眞乃これ

長角

四 俳諧諸部発句

神祇

物雲や官より律と如家屋

明水

釈教

燦そりてちいめでん佛うれ

不卜

恋

そめれさや燦て侍夜の蚊をうる

尼芳樹







詩

子妹乃をねといまほことす月

巨海

歌

しををしらりる雨さねのうげり

長之

たほ

田子乃うらにうらぬくをばはねと

離雲

世の中

世中よ身こそをる麻のしを

常規

夕月

妹ハもの月次馬ハつとをく

息貫

瑞河

ゆく月よあふく地也どあうそよ

似室

小奇

勢々まのやう流乃あう車

一幽

狂天

比良三上雷門りくを流す橋

とを

懸空

并は葉のみなれ赤しや雪れくれ

のく

仁心

ぎやうあれもそおなまき虫乃と

保つ

眺望

晴をのて半はをがうや雪乃の信

心至

秀句

何りうらうらうらハりり酒

正由

去り

乃こそむへうす雲は御此乃白ひ

貝隆

たふ

ふ乃月綿へ投う糸碗う糸

奉堂

見え

毛子尾れ一の巴や舌乃犬

鞭石

あそ

ほくまれて中乃ひまの蓮の

那こ

皇羽

住吉乃をうく味一三ヶ月

鉄扇

だれ

鶯が毒乃こえとふ毒を

探つ



心能

河能

心能

寂

老

加

繼

感

思

心能出て油をうき 柳うれ

猫乃こきゆらび乃貝や斤サム

間鴻さうふやとかんれ小らるき

月影ら柳うれふあまを

う乃ねやえぬれ様か

年工が日 和を星の向

皇よよよて三月七日 八月の

昔が身に秋風を 観に二人

長乃あまをくよとゆふれ

戈丸

琴風

鷺助

素堂

色雪

侯戸

信徳

信徳

日

か

あ

み

洞

火

あ

破き葉乃石南 星出次 融

上童ゆら 粽乃けとさ

毒よいし様 ほうけの 柵

星い七夕 牛の 蠅

地うきほく 屋にいまうん 天

かす籠りわて 流乃ん 壺

三ヶ月の 柵不 け

毒乃ね けり 柵の

桶さらの 花乃 野

調柳

西吟

竹亭

常

道柳

如泉

不角

琴凡

行







遠白

月乃姿を呼ぶる智天付

二行

池

煉よまひ水すこほや流乃城

操更

聖律

世つもて道踏あしかなうより

友元

物

善候ぬ母のそ母は母一まこと

卯水

不心

花のそ侍ハ上殿ウ浅まら

心成

理世

妹凡乃吹くくろくろ久老良

松葉

松氏

山中や菊ハ多れど湯ハ白

長風

聖極

善候もて駕行よくはくそ

暮四

麗侍

ちのそ也祝と乃まは常凡

暮四

存直

鳴さうれ虫と花よまを

一笑

花麗

ちのそとらるまのそり梅を

竹亭

松作

つらつらわふ乃むれり

常友

竹作

里うすそ夕をねりくろ

竹作

真可

元日や家よあつりれを刀

玄毛

秀逸

唐湯乃そ入むよりにりあ

玄毛

抜群

毛少くところわむ乃山

負室

写古

静母よりあつりあつり

山

面白

たつそハ雷まの并れ

山



一真

鳥乃二足ニ成テ夕ニ

鳥

系曲

松崎也日ノ月ノ本月

羅舟

農本

とくもわん薪花咲垣根

心重

胆様体

ひりにます體もあ

心重

一様体

富士ノ八月を

甚

柱を

何をまし皮片ノ八月

老負

強力

本を伐て投也

明水

三 俳諧大意

此階乃句といふ家に

つと用也一此うら

うら洞あり形

又連此兩用乃

いふ此連

てうるめと

あふ人

連又仿例

ふあとの人

ふあ事











乃うのりく物と荒屋は鶴の死

又

虎は尾はまじりてうらむるは堂

の毒やほひよまじりて後之

右は白くもいほくも等しきとらぬくくや梅苑

ハ鶴は花母かまひ荒屋を食ひ殺すとよまじりて

虎は毒をぬ毒乃白とまじりてくくはびくまじり

りてりてとらひ常りてぬくくはまじりてりてり

化者ららしむいれある所ともみても只くまじりてり

乃死人のた母死くくぬはと女もらぬはひひぬ

けきくくはむはひりてりてりてりてりてりてり

のうくくをりてりてりて

死心やうりてりてりてり

猶素やくくりてりてりてり

く死ハ初乃いぬるもくくくくくくくくくくく

りくも等しきもかありぬりくくくくくくくく

其語謂之換骨はくくくくくくくくくくく

子乃曰くくくくくくくくくくく



山門み躍しすまのからり

こほ白い又心かしの初名別の物よそ規操其意形  
容之謂之棄胎はごりたよらしくやゆん

(五) ぬ白切字

活きの我

為高曇りりあさうたれた林外

信徳

櫻洲帯のうたれたあつれまで

華堂

あつれ

蝶々うらうらあきあきあひさり

明春

あつれ

まごあきあきあきあきあきあき

林下

あつれ

晴れあきあきあきあきあきあき

一言

あつれあつれあつれあつれあつれ

知足

あつれ

あつれあつれあつれあつれあつれ

信正

あつれ

あつれあつれあつれあつれあつれ

一鉄

あつれあつれあつれあつれあつれ

言水

あつれ

あつれあつれあつれあつれあつれ

飛雨

あつれ

あつれあつれあつれあつれあつれ

五本

あつれ

あつれあつれあつれあつれあつれ

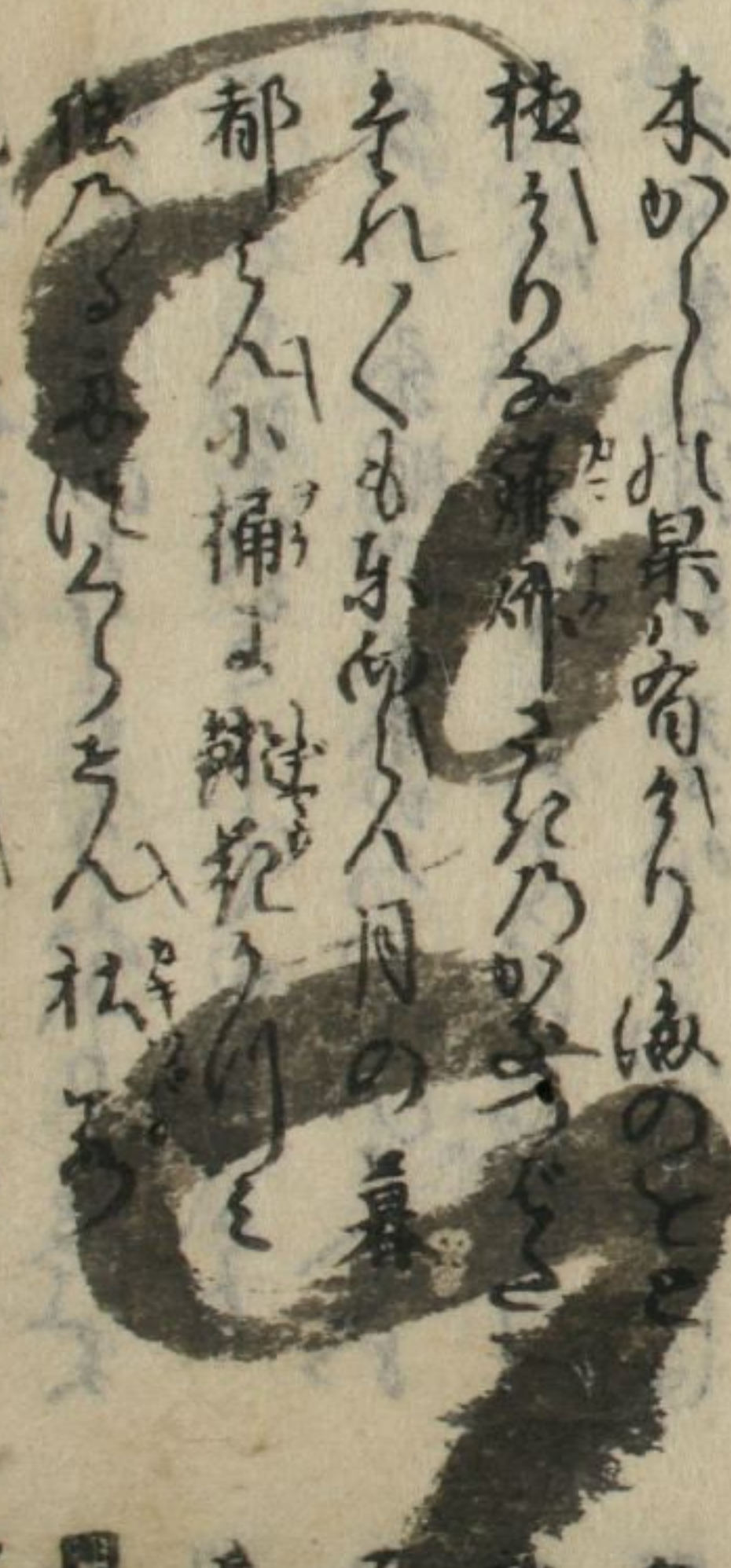
鳥友

あつれあつれあつれあつれあつれ

目也

あつれあつれあつれあつれあつれ

如琴





り  
大乃んれ水乃ん人とあるるり  
いさりまのらうまりみぶり不夜は実

現在  
の思ことむまかこしてのりりり

あつふ桐乃葉のらりいひさる

本海 襖 雪 まらうらふはは 緑あり

そぐす人けし 茶みうらふなまは

権と柳よのあをたかせへト

花のくをくさる人乃ん七徳り

何れかしうけは 危袋長まらう

花有て大はうそねゆめあり

りぞ碎く巻ふてりはし 桃の花

くくくおよあるとりの夏はあ

行女みえりりりり 行とては

賢者呼よりの巻ゆりらるる常

はえて魚の骨撰のこも生りん魂

度と女の籠がしりりり 巻れお

白とぞ地伽耶よ根と焼松あり

唐乃芳也ハ内をさきりりうハ

和之

荷翠

竹亭

山月

桐葉

野水

文成

竹翁

東海

常矩

松笛

玉芝

軒研

通達

方心

嵐若

望文

景斗



かゝあ 傾城は親みどかか他乃 死考  
 う 流五乃のりうう鬼かたわろ月  
 中ぬ 葉乃の田倉根うう紙 高藤草  
 哉うよろ うらにちちうくとまの聖果會  
 やん 極秀まやのあは毒あね  
 うん くらうの非れ科く六尺乃う  
 しを えんハハをりまうまうれ葉の巻  
 あり 白多よ價乃うういもくううみるれ  
 貴らぬやうまのうあうほを  
 荷台 芭蕉 周木 富丸 一水 如泉 古根 ね及

いまよ 船おいよま物うう行乃 うん  
 いづき 毒柳いばはさ階みわらう一所  
 いづこ 後たはふ陰いづと細代 寺  
 いけう 片そよこれ本社ふ徳うま本え  
 いづい 築比乃のりうういをい所うふ  
 いづもせん いづようん脚杜ふはくまはあめ  
 何 五月雨何を葉よ及うあの人  
 水徳いとかく何そのあううう  
 松平 鞭石 前翠 周竹 高藤 去義 毛塚 千羽

〇上

〇下



あご  
いく  
まね  
まう  
まぐ  
かど  
いひ  
さそ  
いさ

人におとらつとそてねぬちりいそ  
おとらつといひくつる人死良乃暮  
わいふれま海あそく秋乃わか  
色とぬいれそ燦くつと新うい  
おろろ居りて居あそくうよ初さく  
紫刈てぬかかとあそく雪水嵐  
わあふよいつれ移してま一穂  
なはらう残雪清水おむら  
ふいさむよ田家考まきこあ四

洋水  
其角  
尚白  
法三  
常牧  
明水  
玄紫  
季吟  
軒棟

よの  
え

いざらつとを雪らんよくあそく  
月ハ新産沢酒よいかうさ  
白魚の舞よあつ地よ水乃あふ  
みるあそくあそくたあそく  
蓮葉よあそくあそくあそく  
内まへへとあそくあそくあそく  
右足袋は四十に足と踏くあそく  
わくあそくあそくあそくあそく  
あそくあそくあそくあそくあそく

芭蕉  
か件  
身隆  
幸佐  
山店  
松叟  
元雪  
松木  
白雪

正

六



こしやう紙牡丹乃茶わさくさ  
 としやうみそらご賣れさくさ  
 水さや蜂色雀もぬさくさ  
 花さやあよしく人とかぬ人  
 夜あやとまりのりそて初雨  
 白雲乃そらや日月おさくさ  
 夜さのふらさくさやみくさ島  
 乃さ茶と燗くさくさや梅さくさ

下如

りせてあうへまき

こしやう紙牡丹乃茶わさくさ  
 としやうみそらご賣れさくさ  
 水さや蜂色雀もぬさくさ  
 花さやあよしく人とかぬ人  
 夜あやとまりのりそて初雨  
 白雲乃そらや日月おさくさ  
 夜さのふらさくさやみくさ島  
 乃さ茶と燗くさくさや梅さくさ

〇

〇

去春  
 竹崎  
 竹亭  
 彫堂  
 道打  
 策  
 正時  
 我黒  
 志林







⑩大由り

しんまへて、たのあゝまへて先  
しんまへて、たのあゝまへて先  
虎海

⑪長舟切

勝へらぬぐち馬やのれん  
林園  
初んのお車（モトカ）と人乗（トノリ）とよめりり  
初んのお車（モトカ）と人乗（トノリ）とよめりり

⑫切まねくして平首分別句

毛づくさくしりたふも野心  
貞室

余乃兼いぬきんかきりやせうたれ兼  
和反  
博（ハカ）やんてきりゆ。人冬乃（トノリ） 蠅  
其角

こねくちの切まねくしりたふも野心  
初んのお車（モトカ）と人乗（トノリ）とよめりり

右切字も一大概（オホ）とめもゆりねらるひ乃相変（ウラ）を  
乃相変（ウラ）の切まねくしりたふも野心  
初んのお車（モトカ）と人乗（トノリ）とよめりり

かたぬかひのりかたぬかひのり  
初んのお車（モトカ）と人乗（トノリ）とよめりり



する人ぢらるゝまゝく白くしゆ。

松が合りのくまてくくく松しづり

又どき乃二字の連歌ととなまこつ共のくくゆか  
殊りしあ母乃能より人の用いあるもくくくたうけ  
白くくくして可い定

(七) 現在乃哉 くらゝ哉

現在乃哉 後白くくくくくくくくくくく

くらゝ哉 今何れははくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

(八) 現在乃 現在乃

あろくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくく

此ゆきの現在乃まゝくくくくくくくく

まゝくくくくくくくくくくくくくくく

これの切字はあゝあゝ

(九) かりんぬ 不のぬ

たくとくくくくくくくくくくくくくく

右ぬの字は下はるの字はうひてあゝあゝ







Handwritten text in a cursive style, likely a transcription of a document. The text is written vertically on the right page of the open book.

不孝のいふがうでかゝらば一

いふをたふさるるはかたじけなくも

右乃白ももてしへく動舟か人一又こ

とあるよふに字つり字と押入る

いふらふとさうさうさうさうさう

いふらふとさうさうさうさうさう

いふらふとさうさうさうさうさう

土母へ後押字

いふらふとさうさうさうさうさう

いふらふとさうさうさうさうさう

いふらふとさうさうさうさうさう



も 何度か道は行くさうはさうりかて  
おのぬ 獲て世よおのぬをくかぬぬ命を  
都は徳とて人として不自中かて

此系く又

殺生食肉はる海なる世くして

おぼやかいおのぬの教生を念くはる字くはるく  
くしておをくあぬぬをくおのぬ又二句の中を  
おのぬ抱くはるおのぬ

おのぬ抱くはるおのぬ

おのぬ抱くはるおのぬ  
おのぬ抱くはるおのぬ  
おのぬ抱くはるおのぬ  
おのぬ抱くはるおのぬ  
おのぬ抱くはるおのぬ  
おのぬ抱くはるおのぬ  
おのぬ抱くはるおのぬ  
おのぬ抱くはるおのぬ  
おのぬ抱くはるおのぬ  
おのぬ抱くはるおのぬ

① 引りかよくを字と押字

魚乃名と何ぞとて人の無くして

おのぬ抱くはるおのぬ

おのぬ抱くはるおのぬ

おのぬ抱くはるおのぬ



引くはうへへいふ

⑤ よまうまがひの文字有てて留分仕様

ぬえのれ中へ何いふまにくかれいひきかどれ  
まじひれ字有てていふもあつて然れ  
まじあつていふてあつて

いふまにんあつていふまにん  
いふまにんあつていふまにん  
いふまにんあつていふまにん

いふまにんあつていふまにん

物とらう一足いふまにんあつていふまにん

⑥ 下へいふていふ

いふまにんあつていふまにん

中へいふていふて

此二のれがへいふていふまにん

⑦ 下へいふていふ

いふまにんあつていふまにん

下れる乃よあつていふていふまにん  
用ひきこつていふていふまにん



① 去留

まゝのつらさを猫のよすも  
 上白のほくぬりたりと心とらひて多  
 蕨虎杖かりりて世に  
 下白のつらさめちりて心とらひて  
 とすくも又とれくてもあつたり  
 佛の母とくひ証きくも  
 口徳も下白のつらさ留に  
 せうすいづもとも留りたる

② 去留

ゆむふぬのすく

馬葉のあつた塔二きり  
 小棟繩平と人おゆり  
 門法のあつたかづり  
 伏見の焼場をさうり  
 まごの度門おとし  
 細くあつた結おとし  
 暮のれ目くつら  
 遠り火いさつた































三言 旅

三言より多し世も多し  
てもらふ若狭の字に三

三言 生類

虫魚ノ類も  
さのちんらりる連

三言 植物

木ノ草ノ竹ノ等々  
多し是竹ノ竹ノ包

三言 名所

三言より多しはくま

三言 衣分

一白より多しはくま

三言 降物

雨降る多しはくま

三言 降物

雨降る多しはくま

三言 生類

虫魚ノ類も  
さのちんらりる連

三言 植物

木ノ草ノ竹ノ等々  
多し是竹ノ竹ノ包

三言 衣分

一白より多しはくま

三言 園名

三言より多しはくま

三言 果

果ノ類も  
さのちんらりる連

三言 天象

天象ノ類も  
さのちんらりる連

神祇之詞

大嘗會

新嘗會

鳥居

宮所

法

社

鳥居

鳥居

丸木

玉垣

鳥居

鳥居

拜殿

拜殿

鳥居

鳥居

長安

長安

鳥居

鳥居

御後

御後

鳥居

鳥居



神系 カウシ 里神系いつも カウシ 神輿 カウシ 祭系 カウシ 排光 カウシ 忌作 カウシ

御幣 カウシ 大ねさ カウシ 神道 カウシ 伏宣 カウシ 多想 カウシ 御湯立 カウシ

拍掌 カウシ 迎拍 カウシ 忍拍 カウシ 御間 カウシ 御贖物 カウシ 石沙 カウシ 反托水 カウシ

御火焼 カウシ 燎 カウシ 斎 カウシ 精 カウシ 物忌 カウシ 誓言 カウシ 多起請 カウシ 氏神 カウシ 氏本 カウシ

折火 カウシ 焚 カウシ 鎮守 カウシ 寺 カウシ 洗米 カウシ 儀 カウシ 夫摘 カウシ 毛 カウシ 肌 カウシ

致生會 カウシ いあると カウシ 若身 カウシ 植屋 カウシ 伏 カウシ 林 カウシ ぶら カウシ 身玉 カウシ

奉心 カウシ 人常 カウシ 陸 カウシ 節 カウシ 東 カウシ 柱 カウシ 乙女 カウシ 子 カウシ 侍講 カウシ 初 カウシ 午 カウシ

小忌衣 カウシ 大忌衣 カウシ 庚申待 カウシ 月待 カウシ 日待 カウシ 遷宮 カウシ 行 カウシ

⑤ 非律祇綱

元方 カウシ 年法 カウシ 男山 カウシ 伏保 カウシ 地 カウシ 龍田 カウシ 地 カウシ 橋 カウシ 地 カウシ

新神 カウシ 新文 カウシ 放生 カウシ 川 カウシ 焚 カウシ 山伏 カウシ 柳 カウシ 上 カウシ 己 カウシ 乃 カウシ 後 カウシ

⑥ 又教之類

佛像 カウシ 本像 カウシ 皮像 カウシ 立像 カウシ 元祖 カウシ 祖 カウシ 門跡 カウシ 院家 カウシ 国際 カウシ

儒祿 カウシ 禪 カウシ 律師 カウシ 長老 カウシ 丈人 カウシ 和尚 カウシ 西堂 カウシ 東堂 カウシ











新杖 ニヤシ  
新杖 ニヤシ

傾城 ケイキョウ  
傾城 ケイキョウ

舞妓 マキ  
舞妓 マキ

野良 ノラ  
野良 ノラ

念者 ネンシャ  
念者 ネンシャ

小姓 コウジヤウ  
小姓 コウジヤウ

花あし ハナアシ  
花あし ハナアシ

密言 ヒツゴン  
密言 ヒツゴン

義言 ギゴン  
義言 ギゴン

私言 シゴン  
私言 シゴン

松詰 マツツメ  
松詰 マツツメ

人目 ヒトメ  
人目 ヒトメ

侍 シ  
侍 シ

石 イシ  
石 イシ

新杖 新杖











古家其日也 措切 不仕合 継子 寡 乞食  
フルイユ フノヒスギ スリキリ フシマセ マコ ヲモメ ヲシキ

世於人 後世 借債 借債借債 年忌 月忌 遠忌  
コステビト 一セイ シクセシ シクセシ シクセシ シクセシ シクセシ

平 非本懐詞

約翁 庚賞翁 賤身 賤 愚耐 瘡  
ツクシキ スミヤリノキナ シツガニ シツ フロカ マダ ガト

報盲女 病 卓乃庵 柴の戸  
ゴゼ ヤミ ヲツエ イホリ

里 人傷之詞

雲乃上人 殿丈人 武  
テンヤソト フレ

士の字付くろくつとくも人傷ひあり 寺兵衛等 養者 養者

醫師 佛師 繪師 搦物師 傷者  
イシレ 師の付ハコ 者ハ字ハ

傷文者 僧 農人 高人 職人  
ヒキニシ 比丘尼 比丘尼 シカカリ マキヒト シヨクシ

表匠 伶人 藝者 翁姥 穴尺 伯采 百如  
シイシ 比イニ 比イニ ヤク者 フキナウハ ロクシヤク ハタラク

馬子 番者 痛人 舟人 柱女 主身 我 狂  
コゴ 比イニ 比イニ フナヒト カツラマ アヒレ シニ フレ

月 亭主 兄 姉 妹 海士 民  
ツキ アニ アニ イモイ アニ

娘 冥守 狂人 御乳 母人 衆 洗 樵 吏 奪 近  
ヤモ セキモリ マキ ヲチリ ヒイ シニ シヨリ タカ シヤタ

報盲女 盜賊 夜盜 山盜 強盜 祢宜 祢宜 名 君  
ゴゼ タウツク ヨタツ オサダ オサダ オサダ シキ カスニ ソカ キニ







同代同付ともいふの爲に居かここの歌  
一族雜共凡ま衣生片務和尙定心捨得私  
慕且那地坊友氏友名如来美薩祖  
師乃名他人備也百姓頓礼立

●居所之詞

家 家系 宅門 戸 背戸 窓 蔀 格子 障子

級 級友 級友の 級友の 樓 樓上 宿 宿の

城 天守 亭 玄冥 屋 路 比 棟 軒 二階 柵 末

庵 里 村 天井 庭 間 見 世 部 屋 廊 下 臺 所 座 敷

壁 居 間 湯 敷 納 戸 屋 根 柵 下 筑 比 坂 障 藏 椽

火 煙 坪 内 外 面 簾 井 筒 走 疊 暖 簾 番 所

爰 居 鴨 井 圍 爐 圍 燈 衰 礎 養 子

●非居所詞

○七

○四一



寺台室ツキヤ戸ダウ筑クウ心クウ堂キヨ皇ガイ后リ内トウ裡カ塔カ伽カ藍カのカ又カ宮ミヤ  
社ヤ眠シ花カ庫ク表ヒ柱シ色シ去ク寺シ堂タウのカ名ナ籠ロウ

墨和分之綱

種カ不ラ同ラまラらラのシ星セウ七シ夕タ夢ム多サ想ウ矣レ夏イ矣ム矣ラ  
編イ書ツ膏ヨやシ之シ曙ア曉カとシ雪ユキちシあシるシ月ツキニシ

月ツキ乃ナ入リ的テ方カ乃ナ時トキ残ズ暗ク東トウ雲クモ長ナガ夜ヨ梓シ双ス綿メン  
巨キョウ者シヤ八ハチ布フ炬キョウ灯トウ籠ロウ熱ネツ院エン行コウ院エン燭ジュク臺ダイ漢カン火カ

死シ火カ埋メ火カ房フウ更シてテ床トコらシくクとシはシ火カをシどシろ

又マタ夜ヨいシびシとシ狐キツ照テ射シ蚊カ走シ火カ籠ロウ別ベツのノ鳥トウ  
籠ロウ若ニ延ニ乃ナ始シぶブかカくク若ニくク乃ナ東トウ雲クモ

蝙蝠コウ螢コウ持チ糸シあシくク火カ短タン檠シヤウ送ソウりリ火カ油ユウ燄エン  
沖チウ突ツク外ガイぬヌぐグとト博ハク深シン起キ衾キン籠ロウ時ジ巾キン燭ジュク

年ネン燭ジュク舞マユびビのノとト枕シヤク蚊コ角カク高タカのノ夜ヨ初ハツ多タ摺シ  
川カハ磯イソ将シヤウ人ジン鬼キ蒲フ固コ紗シヤ灯トウ徐シヨウ文ブン侍シヤウ士シ燭ジュク火カ燦セン



ぬじつ天竺川星と唱御名衣く細代床幽  
買産女化物夜祭过君

●北夜分洞

法灯障幕交神糸その曉くく夜焼火  
若欠泊夜を待月夕月夜御火焼常此焼  
床山伏一夜酒禱電明く山か  
入泊みそ月出朝朝く月く夜鐘夜

孫の床泊将入桐多幼多現

●山類之洞

山嶽同祖坂谷冲尾之高根林蔭  
材松木炭竈山姥山姥浮橋小堤小橋松橋  
山梨れ山鳥れ山ゆる実  
葛城久米のそ九折畑く山せむく山あは

●北山れ洞



木多

龍田川 龍田川 木多河 龍田川 木多河 龍田川 木多河

富士河 龍田川 木多河 龍田川 木多河 龍田川 木多河

吉野 龍田川 木多河 龍田川 木多河 龍田川 木多河

室下 龍田川 木多河 龍田川 木多河 龍田川 木多河

治代川 龍田川 木多河 龍田川 木多河 龍田川 木多河

龍田川之水

名の水多の

海浦 龍田川 木多河 龍田川 木多河 龍田川 木多河

頼川 龍田川 木多河 龍田川 木多河 龍田川 木多河

袋細 龍田川 木多河 龍田川 木多河 龍田川 木多河

浮木 龍田川 木多河 龍田川 木多河 龍田川 木多河

和布 龍田川 木多河 龍田川 木多河 龍田川 木多河

任虫 龍田川 木多河 龍田川 木多河 龍田川 木多河

遷下 龍田川 木多河 龍田川 木多河 龍田川 木多河

藤運 龍田川 木多河 龍田川 木多河 龍田川 木多河



菱流木 氷魚田井 月出垣 小碓伏濱 壺井

里丸延虫 水主漁火 灣 恒吉丸井 三井寺 清見寺

志賀丸松 大津 明石 粟津 須廣 松崎 三崎 岩橋

梁 桑がう 雄波津 浦まの愛 八坂 後木綿

① 北の巻廻

難波寺 志賀 恒吉 大井 粟津 水原 天守 橋 同川

新川 志賀 水原 天守 橋 同川 白河の愛 月出水

新玉水 布らうと 宝丸の碓 碓乃うと 田代 碓

苗代 菅屋 横川 小田 碓 碓乃うと 碓水 碓

菅 菅屋 龍 寺浦 碓 乃うと 早苗 天水

岩 碓 蓮肉 乃うと 貝 蓮丸 碓 碓 碓 碓

貝 龍乃橋 碓 碓 乃橋 乾海 氣

碓 碓 乃橋 碓 碓 乃橋 乾海 氣

うら 碓 乃橋 碓 碓 乃橋 乾海 氣











ひらき... 蓮葉の... ハクシラ

あつり... カサ

田... カサ

杖... カサ

衣子... カサ

破... カサ

玉... カサ

初... カサ

初... カサ

初... カサ

猿... カサ

水... カサ

柀... カサ

書... カサ

如... カサ

〇二

〇二



夜よめる人めはどのめとをわたり度人なりとめめまねおれんと  
ゆふのしほえおとせれとくがらわらうとそめひうらなれと書異  
棟の中よあわつて後入るはぬれぬらうは人元日よめを  
よん飛とけり書異の中よあけ入て今めれとけり

落灰と飛とく 三月五日あり乃灰と伴のころよとて一六  
まはるのつら田をよとつらつら 飛とあり

子乃月試あそひ 子乃の松 小松ひく 子乃の松のこけおりて  
とりの半半ハ子乃の角うとく少く少の今今にあも

さき 初子汁日 除無とのそも唐と燻とけり

茶 知ころりあ茶種七らさあろあ 芥

茶 初寅糸 子乃の松のこけおりて

茶 初寅糸 子乃の松のこけおりて

茶 初寅糸 子乃の松のこけおりて

茶 初寅糸 子乃の松のこけおりて

茶 初寅糸 子乃の松のこけおりて

茶 初寅糸 子乃の松のこけおりて

茶 初寅糸 子乃の松のこけおりて

茶 初寅糸 子乃の松のこけおりて

茶 初寅糸 子乃の松のこけおりて

茶 初寅糸 子乃の松のこけおりて

茶 初寅糸 子乃の松のこけおりて

畚卸

物乞岩寺天狗妻 言卯杖卯杖四杖

正月と代卯日とては本号と五尺三寸つとまきりて二束三束  
又ゆいておほもけりてとてつらつらとれ杖とつらつら

二宮大食 二日二乃まといはちま巾まののまきりて二束三束  
又まうて糸札ありて食しつらつら

朝親行幸 言天子乃も旅りてと皇并 臨田客 二日  
母后代又又行幸ある申候は

三ヶ日 白の連袂 言たうやく 千瘡万  
病膏

松乃内 言まかろ 改修の御書  
御本とまきり

履踏之書 言九日又 覆新之慶 言日  
叙位

久遠の書 言九日又 覆新之慶 言日  
叙位

久遠の書 言九日又 覆新之慶 言日  
叙位

久遠の書 言九日又 覆新之慶 言日  
叙位

久遠の書 言九日又 覆新之慶 言日  
叙位



白馬節會 七日 正月 靈辰日

人日 七 人々帳又貼と 七日 人々を去 茶搗河神

事 七 箕尾富実 七 去書院 御修法宿主人

御奇 八 女叙位 八日 女王録と婦人 八日

大元師法 八日 常陸常乃神事 十日 鹿嶋乃 明神乃

除同 十日 夷祭 十日 帳岡 十日 懸召乃

御奇 論義 十四日 男端款 十四日 年

裁 三述打 十五日 花燈夕 十五日 唐乃火

上元日 十五日 御新 十五日 油元 十五日 唐乃火

小豆粥 十五日 師子乃神事 十六日 賭弓 十八日

厄神 十九日 藤氏お茶 十九日

...

...

...

...

...

...



此れと承てなる事

吉田清校 十九日

具足乃後

二十日正月

二十日

魚餅と收

正月廿日仁壽殿

伊都波

外記乃改作

柳忌

福寿草

九日

節振葉

東風

少少く

魚少

水鳥

凍らく

雨水乃節

木乃同

下り

葦

草

梅

野大根

根白草

菘子

菘

百千鳥

凡草

柳

山岩

柳

柳

百千鳥

野大根

梅

根白草

菘子

菘

百千鳥

野大根

梅

根白草

菘子

菘

百千鳥

野大根

梅

根白草

菘子

菘

百千鳥

野大根

梅

根白草

菘子

菘

百千鳥

野大根

梅

根白草

菘子

菘

百千鳥

野大根

梅

根白草

菘子

菘

百千鳥

野大根

梅

根白草

菘子

菘

百千鳥

野大根

梅

根白草

菘子

菘

百千鳥



木地燵縁

依保娘

三月三日

乃ざり

暖日

水あらし

河還

ぬき糸

ぬき

万々楽

春鳥精

梅ぐえ

ふ

子日衣

宮衣

松乃花

みどり

みね

十廿り

霞

三月より

霞代色

霞の衣

あけ袖

一くれん

あまのうし

白魚

目乃

了緒

青苔

あざけり

葩煎

山椒乃枝

野老

長乃

霞乃洞

春麻

気成

二月

仲ま

夾鏡

如月

陽中

初午

初多

中和節

相見

鷲

蟻節

初多

初午

初多

東福寺

水間寺初午

本妙寺

糸

扶生子

乃

釋真

井十哲

春日糸

上申日

園

井韓神

糸

大原野糸

上知日

祈年糸

四日

祇園

講

とく

吉野

餅























表の毛 莖 芽をぬく 枸杞 又本

母子はい 新茶 古茶 茶つ 又本

東ノ菊 加ノ菊 秋菊 萩茶 九輪茶 馬蘭 又

金鳳花 華勝 化仙茶 下子茶

眉他乃苑 仙基萩 蜀植 替

虎杖 三葉芥 若存竹 三月菜 三月

大根 金銭苑 結良菜 乃苑 口んまい 乃苑

表雨 你生心 乃苑 乃苑 乃苑 乃苑

表ららる 乃苑 乃苑 乃苑 乃苑

夏 朱明 昊天

胃

卯月 卯辰月 得志月 辰辰月 巳月 云陽月

更衣 白重 乃苑 乃苑 乃苑 乃苑

之水 乃苑 乃苑 乃苑 乃苑

乃苑 乃苑 乃苑 乃苑

山科条 平野条 松尾条 富田

祭 大和 松本条 乃苑 乃苑 乃苑 乃苑

乃苑 乃苑 乃苑 乃苑



水屋休 三日四日五日 廣津 四月 龍田祭 四月 山崎日使 五月

三日或ハヤ 頼祭 辰月 櫻階奏 三月 選乃短冊と武藝三有

灌佛 八日 仏生舎 社元舎 係佛 五香水 仏舎

鷹鳥入鳥屋 八日 戒壇堂用帳 八日 山崎祭 日

多族祭 上巳 八幡祭 卯日 平安天神祭 午日

伊勢神衣祭 十四日 麻枝乃連と小人麻とくしとくし 同吉日祭

山王祭 加茂乃祭 中西脚形あつひらく 中子月うし田乃

三枝祭 元辛川祭 千子 十六日 三井の

向日神祭 辰 久世祭 巳日 清水比とま祭 九日 當廣

波事 乃思 去塔會 天多 日光祭 十七日 菅宮

祭 中 死供 九日 高井大師乃 神祭 三月 練と祭

松糸渡祭 上 梅天 ハイツ 和清の天 三月 小満乃節 四月

煮酒 麦秋 三月 春麦 三月 芋植祭 三月

ぬのり千と 苔乃花 三月 松丹 三月

花の玉 三月 芍薬 三月 松乃 三月

止

止







存瓜を新多印宛にぞう波印のむ衣

張皮き夜一夏新 五百日行を書し及煙安飛

五月

加茂足摺一日 松本祭 三日あやの

葛蒲うく 四日 蓬うく 四日 内膳司供子氏

五月八節會 天女武所飯よ出脚あり

湯女 葛蒲の力 葛蒲の力

條連 五彩線 薬日五 茶葉 搦 ちりきり

あざり かき甲 友人 蒲人 天神と多か

東りり 艾虎とぞく ちりきり

粉團と村家 白粉志 水志

あざりかき甲友人 蒲人天神と多か



小角弓は... 枕印符 五日 赤靈符 日

あて... 百系

た... 蘭湯

多... 泉

向... 水馬

競... 水馬

騎... 危

...

下地 神水 加

...

...

...

...

...

...

...

...



徴雨 黄栌 虎 洞雨 祇園 法興 院

守夏生 五月 中 富士 堀 離 蟬 乃 初 登

雲 志 入 去 菰 刈 藻 乃 心 藻 乃 心

藻 刈 亦 萍 乃 死 和 布 乃 刈 百 合 乃 心 乃 心

車 百 拾 菰 乃 死 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心

茶 四 ひ ね 末 摘 死 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心

乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心

乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心

乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心

乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心

乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心

乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心

乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心

乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心

乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心

乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心

乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心 乃 心

上

〇



西粟アの中ク

禊 拒 胡 麻 赤 子 小

救 子 小

そ ち ち ち ち ち ち

十月 火 火

火 火

救 柱 救 子 小

蚊 火

蝸 牛

蛇

蛭

蝮 蛇

蝮 蛇

蝮 蛇

水 馬

雌 蟬 蚊 子 小

水 多 火 巢

黒 鴨 子 小

黒 鴨 子 小

水 籠

こ ち ち ち ち

毛 子 小

毛 子 小

羽 子 小

羽 子 小

多

法 子 小

鶺鴒 子 小

鶺鴒 子 小

鶺鴒 子 小

魚 巢 子 小

魚 巢 子 小

鮎 子

鮎 子

鮎 子

鮎 子

鮎 子

鮎 子

鮎 子

鮎 子

津 走

水 鏡

水 鏡

水 鏡

水 鏡

水 鏡

水 鏡

水 鏡

や

葛 蒲 帷 子

葛 蒲 帷 子

葛 蒲 帷 子

葛 蒲 帷 子

葛 蒲 帷 子

葛 蒲 帷 子

葛 蒲 帷 子

育

且 月

初 月

陽 水

あ ち ち ち ち

あ ち ち ち ち

あ ち ち ち ち

あ ち ち ち ち

氷 室

一 日 一 日

一 日 一 日

一 日 一 日

一 日 一 日

一 日 一 日

一 日 一 日

一 日 一 日

供

期 日

期 日

期 日

期 日

期 日

期 日

期 日

六 月 會

四 日

湯 鉢 八 御 卜

湯 鉢 八 御 卜

湯 鉢 八 御 卜

湯 鉢 八 御 卜

湯 鉢 八 御 卜

占 筮

月 次 乃 命

月 次 乃 命

月 次 乃 命

月 次 乃 命

月 次 乃 命

月 次 乃 命

神 今 食

神 今 食

神 今 食

神 今 食

神 今 食

神 今 食

神 今 食



祇園會 七日

長刀鉾 ありありと 月夜にさしやと三  
かんこりききくとのやと 松下りこまやと

都巨山 盃家山 翠破山

くくさ州やま 天来山 岩戸山

空山 白糸天 芦刈山

花命山 天来山 岩戸山

うろ狭室のひねり 四象 赤極の法施所

すくもく 八ヶ人山 祝喜山

おし 同

役の行志 終麻山 高の山 舞の山 舟り

津島祭

十四日 ふみまらり

津島祭

十五日 札灯りのひま

いんま 志波寺祭

十六日 志波寺祭

いんま 志波寺祭

十七日 志波寺祭

いんま 志波寺祭

十八日 志波寺祭

いんま 志波寺祭

十九日 志波寺祭

いんま 志波寺祭

二十日 志波寺祭

いんま 志波寺祭

二十一日 志波寺祭

いんま 志波寺祭

二十二日 志波寺祭

いんま 志波寺祭

二十三日 志波寺祭

いんま 志波寺祭

二十四日 志波寺祭

いんま 志波寺祭

二十五日 志波寺祭

いんま 志波寺祭

二十六日 志波寺祭

いんま 志波寺祭

二十七日 志波寺祭

いんま 志波寺祭

二十八日 志波寺祭

いんま 志波寺祭

二十九日 志波寺祭

いんま 志波寺祭

三十日 志波寺祭

いんま 志波寺祭

三十一日 志波寺祭

いんま 志波寺祭

三十二日 志波寺祭

いんま 志波寺祭

三十三年 志波寺祭

いんま 志波寺祭

三十四年 志波寺祭

いんま 志波寺祭

三十五年 志波寺祭

いんま 志波寺祭

三十六年 志波寺祭

いんま 志波寺祭

三十七年 志波寺祭

いんま 志波寺祭

三十八年 志波寺祭

いんま 志波寺祭

三十九年 志波寺祭

いんま 志波寺祭

四十年 志波寺祭

いんま 志波寺祭

四十一年 志波寺祭

いんま 志波寺祭

四十二年 志波寺祭

いんま 志波寺祭

四十三年 志波寺祭

いんま 志波寺祭

四十四年 志波寺祭

いんま 志波寺祭

四十五年 志波寺祭

いんま 志波寺祭

四十六年 志波寺祭



新八物 も午八天を獲民よ 夏 かづら

川社 夏後より川をよ相とす 小蠅 カニ

法火祭 八月十日社氏乃人火とすてま城乃四角

道定食祭 同日四角四角乃祭とす

施米 東山ぬ山ぬとす

雷鳴 雷乃夕三交高くなる

小暑 六月 温風 節

大暑 六月の 溽暑 節

天魁節 六 伏 交身後身之始

去用 虫 扇 扇車 扇引

涼 月涼

行拭 風 雲乃

目傘 つと 泉水 泉殿 清水 法

新井 六月又井とす 水飯 麻地酒

酒油 心



葛水 下飯 煮冷 赤良漬 橘

交切茶 梅じき 子桃 楊梅

林檎 百日紅 梅子 澤

運 荖花 蒲乃核

写 汗骨 荖花 蒲乃核

海虫 荒布 竹乃皮取

茵 鉄線草 眼皮 凌霄花

虎尾乃心 風筒 釣籠茶 眼

寶珠 麒麟草 村下 青石灯

空蕪 赤草 麻 茗荷 葛花 佛

乃心 香薷散 蒜乃根 瓜

盛秋 乃秋 瓢箪 小角豆 竹乃皮取

南瓜 夕秋 子桃 楊梅

鷓鴣鷹 蝉 蠅 蚤 蛇

夏虫

夏虫

夏虫















着の服をくまの糸に白く  
曇珠の花  
裁金八分

冬欠花 益母草  
若荷の花  
薤豆

擅豆 緑瓜 番椒  
蕪麻 蓮の葉  
及たり

木瓜の葉 柘木  
秋の蚊  
秋の

胡蝶 秋の  
赤と人

私虫 冷虫 蚕  
蜘蛛  
出候虫

常 七月初  
鳥の糸  
高屋の糸  
鳥の糸

初を指 鳩  
冷表  
燗果

八朝 八月初  
仲秋南呂  
那月中集  
集月

水村の糸  
天神の糸  
小野の糸

八朝 八月初  
仲秋南呂  
那月中集  
集月

水村の糸  
天神の糸  
小野の糸

八朝 八月初  
仲秋南呂  
那月中集  
集月

水村の糸  
天神の糸  
小野の糸

八朝 八月初  
仲秋南呂  
那月中集  
集月

水村の糸  
天神の糸  
小野の糸

八朝 八月初  
仲秋南呂  
那月中集  
集月







サヤガサキ 花紫 藍乃花 山わね

壇特茶 志とよ 月草 葛

葛 鳳仙花 鶏頭 金剛草

花壇 野菊 通草 藜花

絳紅 芍薬 毛 瓜

百夜草 苗香実 地瓜 牛房

松丹の根 芋 薯蕷 蕎麦

茶川 瓜 芋 蕎麦

綿やう 衣 菜花 蕎麦

鶏 鴨 雁 小鳥渡 色鳥

燕 鴨 雁 小鳥渡 色鳥

鴨 雁 小鳥渡 色鳥

鴨 雁 小鳥渡 色鳥

鴨 雁 小鳥渡 色鳥

鴨 雁 小鳥渡 色鳥

〇上

〇下







下多羽祭 十日 例幣 十日 住吉相摸會 十三日 住

吉本市 十三日 白河祭 十三日 後行名月

天王寺一葉會 十四日 岩倉祭

小倉祭 十五日 幼學會 二月 西京回

神田明神祭 同日 度會新嘗

忍海祭 同日 山口祭 中己午 吳服祭

徳利女祭 九日 宝町有 猿庚

城南寺祭 九日 上老翁

天王寺法縁催項 十日 右秦祭 十二日 後祭 十三日

天満橋流馬 十一日 木懐祭 十四日 鹿舌祭 十五日

送交祭 同日 小山祭 十六日 福王神祭 十八日 鳴瀬

付村 十七日 野々宮乃別 桂川の御後

霜乃節 九月 荏蛤とある 桑乃り也

百菊 九月 大向 餅揚地 舟草 金同貴

残子菊 九月 大取ろろ 乙女祭 金菊

霜降乃節 九月

菊重乃衣 紅葉衣



成獣とすのふ紅葉川の紅葉は秋

木葉とす 柘とす 檀とす 紅葉とす 向膠木とす 紅葉とす 櫻とす 紅葉とす 名

梯とす 紅葉とす 楓とす 紅葉とす 佛とす 白梅とす

枝とす 紅葉とす 葉とす 楓とす 紅葉とす 佛とす 白梅とす

金梅とす 久とす 梅とす 佛とす 白梅とす

胡桃とす 梨とす 檫とす 楸とす 楓とす 紅葉とす 佛とす 白梅とす

檫とす 楓とす 紅葉とす 佛とす 白梅とす

檫とす 楓とす 紅葉とす 佛とす 白梅とす

檫とす 楓とす 紅葉とす 佛とす 白梅とす

檫とす 楓とす 紅葉とす 佛とす 白梅とす

檫とす 楓とす 紅葉とす 佛とす 白梅とす

檫とす 楓とす 紅葉とす 佛とす 白梅とす

檫とす 楓とす 紅葉とす 佛とす 白梅とす

檫とす 楓とす 紅葉とす 佛とす 白梅とす

檫とす 楓とす 紅葉とす 佛とす 白梅とす

檫とす 楓とす 紅葉とす 佛とす 白梅とす

檫とす 楓とす 紅葉とす 佛とす 白梅とす

止

三十三



アムンダリ 有花よりこのきのき 元也 草

ワキモノ <sup>カク</sup> 紙草 <sup>カク</sup> 花乃 <sup>カク</sup> 花 老母草 <sup>カク</sup>

菟豆 <sup>カク</sup> 文豆 <sup>カク</sup> 油 <sup>カク</sup> 苧 <sup>カク</sup> 蓐 <sup>カク</sup> 蓐 <sup>カク</sup> 蓐 <sup>カク</sup> 蓐 <sup>カク</sup>

栗 <sup>カク</sup> 栗 <sup>カク</sup> 栗 <sup>カク</sup> 栗 <sup>カク</sup> 栗 <sup>カク</sup> 栗 <sup>カク</sup> 栗 <sup>カク</sup> 栗 <sup>カク</sup> 栗 <sup>カク</sup>

玉指 <sup>カク</sup> 晚田 <sup>カク</sup> 柳 <sup>カク</sup> 天物 <sup>カク</sup> 新酒 <sup>カク</sup> 小果 <sup>カク</sup> 江朝 <sup>カク</sup> 露霜 <sup>カク</sup>

紅葉乃 <sup>カク</sup> 土屋 <sup>カク</sup> 紅紫 <sup>カク</sup> 鮎 <sup>カク</sup> 袖 <sup>カク</sup> 霜 <sup>カク</sup> 露霜 <sup>カク</sup>

花越 <sup>カク</sup> の 鴨 <sup>カク</sup> 網代 <sup>カク</sup> 打 <sup>カク</sup> 衣 <sup>カク</sup> 打 <sup>カク</sup> 袖 <sup>カク</sup> 霜 <sup>カク</sup> 露霜 <sup>カク</sup>

相 <sup>カク</sup> 踏 <sup>カク</sup> 鹿 <sup>カク</sup> 結 <sup>カク</sup> 栗 <sup>カク</sup>

相 <sup>カク</sup> 踏 <sup>カク</sup> 鹿 <sup>カク</sup> 結 <sup>カク</sup> 栗 <sup>カク</sup>

相 <sup>カク</sup> 踏 <sup>カク</sup> 鹿 <sup>カク</sup> 結 <sup>カク</sup> 栗 <sup>カク</sup>

相 <sup>カク</sup> 踏 <sup>カク</sup> 鹿 <sup>カク</sup> 結 <sup>カク</sup> 栗 <sup>カク</sup>

相 <sup>カク</sup> 踏 <sup>カク</sup> 鹿 <sup>カク</sup> 結 <sup>カク</sup> 栗 <sup>カク</sup>

相 <sup>カク</sup> 踏 <sup>カク</sup> 鹿 <sup>カク</sup> 結 <sup>カク</sup> 栗 <sup>カク</sup>

相 <sup>カク</sup> 踏 <sup>カク</sup> 鹿 <sup>カク</sup> 結 <sup>カク</sup> 栗 <sup>カク</sup>

相 <sup>カク</sup> 踏 <sup>カク</sup> 鹿 <sup>カク</sup> 結 <sup>カク</sup> 栗 <sup>カク</sup>

相 <sup>カク</sup> 踏 <sup>カク</sup> 鹿 <sup>カク</sup> 結 <sup>カク</sup> 栗 <sup>カク</sup>

相 <sup>カク</sup> 踏 <sup>カク</sup> 鹿 <sup>カク</sup> 結 <sup>カク</sup> 栗 <sup>カク</sup>

十月

○冬 元英 上天 玄帝 律檀 羽音

十月 神皇 良月 玄冬 析木 泰正 陽月

文衣 五冬乃旬一日 神送



おつらるる 一日一夜の荆楚 進炉炭 煖煙會

送るる 一日一夜の都の法人 亥子乃餅 十日

お境 煖たまふまてりまき 残菊宴 五日

冬立 冬らしき 達上 十日 云仏 十五日

真福寺法 六日 維广會 十日 金比野 十日

御親謙 十三日 下元日 十月十日 水宿解厄 中

策福寺 十六日 夷謙 九日 大社 十日

出雲 津川留主 十日 小高節 十日

十月 法勝 九日 大業云 九日 燧開 十日

火桶 桑乃切 十日 袖母取 十日 川音 十日

代河内 十日 志中丸 十日 袖霜 十日

青女 十日 落葉 十日 木枯 十日

柳 十日 冬木 十日

栝野 十日 落 十日

萩 十日 葛 十日

枇杷乃苑 十日 冬木 十日

冬木 十日



常花 八子花 宝菊 ほとりの花

菜 芸 大根 茗 麦 神 神 神 神

納豆汁 麦蒔 神雪 神水

鐘水子 さし 細代 水魚 い子の使

あじふ 鯛代 水魚 川子 秋子 砂子

はま漬 釜 子鳥 川子 秋子 砂子

水鳥 川子 秋子 砂子

鴨子 生海扇 鱈 鯉 鮭 鱈 鱈

炭電 白炭 賣炭翁 炭石 綿

余衣 頭巾 暖補

飯雨 冬笠 冬かき

雪垣 雪羊

霜月 天正月 氷月 雪月 草月

十月 霜月 天正月 氷月 雪月 草月

十月 霜月 天正月 氷月 雪月 草月

十月 霜月 天正月 氷月 雪月 草月

十月 霜月 天正月 氷月 雪月 草月



曆奏 一日こ 朔旦冬至 十月朔日冬 芝居款見世

發置 一陽乃赤節 十月八日一陽復を 宮深と流

禮とてする 履と款家

糸 上卯日大和住吉大神 此師無智こと富葛木鴨紀伊子

宗像糸 上卯 山科糸 上巳 平野糸 上申 春日

糸 同日 松本糸 同日 當上糸 率川糸 上酉 梅

高糸 上卯 高宗糸 同日 中山糸 同日 松尾糸 同日

大原野糸 中子 園韓神糸 中酉 吉田糸 申日

日者糸 同日 白作とらり 糸と定むり 五帝 中酉日

殿上例碑 日 将乃使 是ハ其師の行 終り人なる

と移の トウニヨ 糸 卯日信像 法魂糸 中酉日

相師の難世とてしんき 新掌糸 中卯日 糸

豊明公命 中辰日 糸

日吉徳母乃糸 中申 加茂院内乃糸 下酉日

三條御神系 下卯 里神系 小忌衣

東







トタ子 慕 教訓 草 ころり 竹 為 茶 丸 草

夜 近 近 多 符 媛 多 定 苦 多 練 じく

初 柳 鮎 花 松 史 魚 蕎 麦 湯 じく

茶 ぐい 玉 子 酒 粟 餅 蕎 麦 湯 じく

晴 凍 書 留 總 賁 雪 車 じく 櫻

十二月

多 子 多 蠟 月 吟 月 大 呂 極 月 才 月

乙 丑 朔 日 忌 火 於 御 飯 一 日 六 月 一 日

大神 祭 上 卯 日 天 智 天 皇 於 御 國 忌 二 首

御 神 乃 御 占 奏 又 同 一 月 決 乃 祭 亦 今 食

正月 幸 じく 御 佛 名 二 日 十 日

被 紗 栢 梨 劫 盃 御 佛 名 二 日 十 日

御 髪 上 下 午 日 為 人 乃 御 髪 上 下 午 日

依 じく 大 之 日 禁 中 御 髪 上 下 午 日

着 袴 乃 政 大 之 日 禁 中 御 髪 上 下 午 日

寺 之 權 頂 十 音 温 糟 粥 八 粥 大 德 寺 宛 心 忌







臘毒ワサキ 早咲ワサキ 松マツ 孟宗竹モウソウチク 冬筍フユタケ 空竹ソウチク の子

右四節乃朔旦をるる事なりとて申ははるるにまこと  
てうらなくもくひをいへども是れ他神乃こと  
羽子草萬花乃因籠又信末も秋風雨霜  
雪乃具名をどあらくを去はくこと人きあも  
乃くはいとらる事なりとて其物ハ時節なり  
くあしぬも信也とも撰乃こと人いふことなれと  
書載ゆりた下記をなせ

⑤ 面八句 律紙尺表意也考て函儀に面役人

公し所因字と嫌之但後句律紙尺表意名不亦  
と暇めもまべ一第三句はくくをく次  
後句一庭乃寒及るんを宗近貴人孫安老余其如  
多へくす但千句乃うら月次まよそハ宗近  
らひみ何とらべきも其因はるのさそくみよしと  
切字はくくを弟之句乃俸のびくをわくえ  
細やゆくくをうら風雅とそりて一とあし  
わくまれ一白乃中より合わくく物乃名をたと























團執筆其様

一 其末片はかく貴人宗近孫也其人其の世紀は傳はるべ  
くうひうの二統して始りて又其世にさるる一太皇太后  
其方其人お人おのりてさるる方々ゆへ一志願して  
扇をぬき我おはくは何れゆく動も成と成りあり  
手血とわすれ水トともめ入しと書とともりん  
中右三五七度と書  
一 其末片はかく貴人宗近孫也其人其の世紀は傳はるべ  
くうひうの二統して始りて又其世にさるる一太皇太后  
其方其人お人おのりてさるる方々ゆへ一志願して  
扇をぬき我おはくは何れゆく動も成と成りあり  
手血とわすれ水トともめ入しと書とともりん  
中右三五七度と書  
一 其末片はかく貴人宗近孫也其人其の世紀は傳はるべ  
くうひうの二統して始りて又其世にさるる一太皇太后  
其方其人お人おのりてさるる方々ゆへ一志願して  
扇をぬき我おはくは何れゆく動も成と成りあり  
手血とわすれ水トともめ入しと書とともりん  
中右三五七度と書

際... 其書は下二

一 其末片はかく貴人宗近孫也其人其の世紀は傳はるべ  
くうひうの二統して始りて又其世にさるる一太皇太后  
其方其人お人おのりてさるる方々ゆへ一志願して  
扇をぬき我おはくは何れゆく動も成と成りあり  
手血とわすれ水トともめ入しと書とともりん  
中右三五七度と書

一 其末片はかく貴人宗近孫也其人其の世紀は傳はるべ  
くうひうの二統して始りて又其世にさるる一太皇太后  
其方其人お人おのりてさるる方々ゆへ一志願して  
扇をぬき我おはくは何れゆく動も成と成りあり  
手血とわすれ水トともめ入しと書とともりん  
中右三五七度と書

一 其末片はかく貴人宗近孫也其人其の世紀は傳はるべ  
くうひうの二統して始りて又其世にさるる一太皇太后  
其方其人お人おのりてさるる方々ゆへ一志願して  
扇をぬき我おはくは何れゆく動も成と成りあり  
手血とわすれ水トともめ入しと書とともりん  
中右三五七度と書

一 其末片はかく貴人宗近孫也其人其の世紀は傳はるべ  
くうひうの二統して始りて又其世にさるる一太皇太后  
其方其人お人おのりてさるる方々ゆへ一志願して  
扇をぬき我おはくは何れゆく動も成と成りあり  
手血とわすれ水トともめ入しと書とともりん  
中右三五七度と書

一 其末片はかく貴人宗近孫也其人其の世紀は傳はるべ  
くうひうの二統して始りて又其世にさるる一太皇太后  
其方其人お人おのりてさるる方々ゆへ一志願して  
扇をぬき我おはくは何れゆく動も成と成りあり  
手血とわすれ水トともめ入しと書とともりん  
中右三五七度と書

一 其末片はかく貴人宗近孫也其人其の世紀は傳はるべ  
くうひうの二統して始りて又其世にさるる一太皇太后  
其方其人お人おのりてさるる方々ゆへ一志願して  
扇をぬき我おはくは何れゆく動も成と成りあり  
手血とわすれ水トともめ入しと書とともりん  
中右三五七度と書







